

第6回大阪府環境審議会環境総合計画部会

日 時：平成 22 年 4 月 16 日（金）10:00～正午
場 所：大阪赤十字会館 3 階 302 会議室

資料 1（環境総合計画部会報告案）について審議を行った。
各委員からの主な意見は、以下のとおり。

基本となる視点

- ・「IPCCは第4次評価報告書で世界平均温度」云々としているほうが良い。報告書が何年なのか入れて欲しい。
- ・「事業活動や日常生活に伴い発生する環境負荷は」が主語であれば、「問題を生じさせている」とする方が良い。
- ・「生物や食物等にも残留することがある」という部分は、生物をつけるのであれば、生物濃縮の話を意識する必要があるので、「畜積・残留」にてほしい。
- ・「さらに、国に対し制度改革や財政上の措置等を講ずるように提案していくことなども含め、新たな財源の確保にも努め」は、むしろ「さらに、新たな財源の確保にも努め、環境分野における地域主権の早期確立を図ることが必要である」。そして「そのためにも、国に対し制度改革や財政上の措置等を講ずるよう提案していくことが望まれる」と訂正した方が良い。
- ・大学生は結構いろんなところで活動することが多いので「通勤」を「通勤、通学」にした方が良い。

計画の枠組み

- ・「主要課題を明らかにした上で」は「主要課題とした上で」で良い。
- ・「強化すべき課題については、主要課題と位置づけ、その解決のために重点的に取り組む必要性がある」と直した方が良い。

目標設定の考え方

- ・府民が何のためにやるかと言えば「暮らしやすい大阪を創る」というスタンス。この「暮らしやすい」は、色々な含みがあって自然等も入っていると思える。
- ・プロセスが大切で、単に結果として暮らしやすい都市ということではなく「府民がつくる」という主体的なものを入れてほしい。
- ・「持続可能」は「環境先進都市」の中に入っている。
- ・「府民が創る、暮らしやすい環境・エネルギー先進都市」とする。

施策展開のあり方

- ・全国ワースト1という部分は、「しかしながら」をつけて、「発信していくべきである」の後へ持ってくる。
- ・図2の「参加・行動」の部分を「府民の参加・行動」とした上で、「持続可能で暮らしやすい、環境・エネルギー先進都市の構築」とした方が良い。キャッチフレーズには持続可能というのは入れなかったがここでは入っていてもむしろ丁寧。
- ・費用対効果の検証で「困難であることに留意する必要がある」というのは出来なくても仕方がないということを知っているような気がするので、「なお、環境の施策は多岐にわたる分野におよぶ多面的な便益の創出があることに留意する必要がある」と修正した方が良い。

用語解説

- ・ 15ページの3の の「関西広域連合」という言葉が出ているが、解説を加えないとまだわからない方がたくさんあると思う。
- ・ 生物多様性の解説では「地球上に多様な生きものが存在し、それらが支えあってバランスを保っている状態」と言い切っているわけではなく、強いて言うなら「地球上の生物界のさまざまなレベルの多様性」というのが生物多様性の意味だと思う。